

## 京丹後市（網野町）出身

### 東北楽天ゴールデンイーグルス監督

## 野村克也氏を京丹後市名誉市民として顕彰

—選考委員会の推挙により9月議会に提案—

平成21年8月27日

京丹後市役所

社会文化の発展にご貢献いただき、その功績が卓絶であり本市の誇りであることから、名誉市民選考委員会を兼ねる京丹後市自治功労者等審査委員会から推挙をいただき、京丹後市（網野町）出身で東北楽天ゴールデンイーグルス監督の野村克也氏を「京丹後市名誉市民」の称号を贈り顕彰すべく、9月定例議会に選定の議案を上程します。

本市出身の野村克也氏は、長年にわたり、球界の選手、指導者として、たいへん出した活躍をされ、本年4月にも、新たに監督通算1,500勝の偉業も達成されました。また、球界の発展のみならず、社会文化の振興発展に寄与された卓越した功績は郷土の大いなる誇りであります。なお、平成2年には、旧網野町から「町民栄誉賞」を受賞されています。（旧網野町では名誉町民の制度自体がありませんでした）

なお、9月議会の議決後、11月21日（土）に京都府丹後文化会館で開催を予定しています「市制施行5周年記念式典」において、「京丹後市名誉市民」の称号をお贈りさせていただくこととしています。

#### 京丹後市名誉市民条例（抜粋）

第2条 市長は、市民又は市に縁故の深い者で、公共の福祉の増進、学術、技芸その他広く産業経済又は社会文化の振興発展に貢献し、その功績が卓絶で郷土の誇りとする者に対して、京丹後市名誉市民(以下「名誉市民」という。)の称号を贈る。

第3条 名誉市民は、市長の委嘱する選考委員会の推挙を得て市議会の議決により選定する。

京丹後市名誉市民条例（平成19年3月制定）施行により、旧町からの名誉町民を引き継いでいますが、条例施行後の名誉市民の選定は初めてとなります。

## 野村克也氏プロフィール

京丹後市網野町出身で、峰山高校から南海ホークスに入団され、以来、現役時代は、数々の輝かしい成績、幾多の記録を残されており、球界屈指の強打者でありました。現役を引退されてからは、監督・指導者としての道を歩まれ、現在は、東北楽天ゴールデンイーグルスの監督として活躍されている（本年4月、通算1,500勝を達成）。選手としても、監督としても、野球史に永く輝く功績を挙げられている。

### 野村克也氏 略歴

昭和10年6月29日生まれ（網野町）  
昭和29年 峰山高等学校から南海ホークス入団  
昭和53年 ロッテオリオンズ移籍  
昭和54年 西武ライオンズ移籍  
昭和55年 現役引退  
平成2年～10年 ヤクルトスワローズ監督  
平成11年～13年 阪神タイガース監督  
平成18年～ 東北楽天ゴールデンイーグルス監督

### 野村克也氏 主な記録・タイトル

実働26年 3017試合出場【日本記録】  
657本塁打【歴代2位】  
2901安打【歴代2位】  
1988打点【歴代2位】  
三冠王（昭和40年）【戦後初】  
MVP5回（昭和36年、38年、40年、41年、48年）  
首位打者1回（昭和40年）  
ホームラン王9回（昭和32年、昭和36年～43年）  
【9回獲得、8年連続獲得はいずれもパシフィックリーグ記録】  
打点王7回（昭和37年～昭和42年、昭和47年）  
【7回獲得、6年連続獲得はいずれもパシフィックリーグ記録】  
ベストナイン：19回（昭和31年～43年、45年～48年、50年、51年）  
【史上最多】  
ゴールデングラブ賞（48年）  
監督通算1500勝達成（平成21年4月）  
野球殿堂入り（平成元年）  
正力松太郎賞（平成5年）  
網野町町民栄誉賞（平成2年）